

## 太白区西多賀第三地区民生委員児童委員協議会

(平成26年10月)

西多賀第三地区民児協は、23名の委員で、三つの連合町内会（山田鉤取・太白・人来田の一部）18町内会の区域を担当しています。世帯数は全体で約6300世帯、一人の受け持ちは平均して300世帯となっています。当地区は仙台市の南西部に位置し、昭和40～50年頃に造成された住宅地が多く、現在では急速に高齢化が進んでいる地域でもあります。

東日本大震災では、当地区は海岸から遠く離れ、丘陵地となっているため、被害は比較的少なく済みしました。しかし、家屋の損壊は古い建物ほど多く、家の中はガラス片など壊れた物で散乱状態でした。同時にライフラインがストップし、すぐに指定避難所3か所（上野山小学校・太白小学校・山田中学校）が開設され、余震の続く中、体育館で寒い不安な夜を過ごしました。

当民児協も、避難所ごとに担当者を決めていたので、町内会の方がたと協力し、非常食の炊き出しや水・食料品の配布等、避難所運営にあたり、また高齢世帯や一人暮らしの方がたの安否確認に回りました。このような時に、地区内の大型スーパーからたくさんの食料品（菓子パン・バナナ・水）が提供され、本当にありがたく感謝の一言でした。

地区内には、被災者用の大きな仮設住宅はないのですが、一般のアパートや借家へ被災された世帯の転入が多少ありました。3年が経ち、元の生活に戻られた方、新しい土地で再出発された方など転出もありましたが、まだまだ不安を抱えたまま頑張っている世帯もあります。

現在も町内会と協力しながら、訪問活動を通して情報を把握し、“見守り”“支援”を継続しているところです。

震災以後毎年、地域ぐるみで防災訓練に取り組んでいます。

地域住民の防災意識の向上と身の安全を守るための知識を身につけることを目的として、町内会連合会、福祉団体、小中学校、消防署、太白区役所などの参加協力で防災訓練実行委員会を立ち上げ、避難所運営マニュアルにそった訓練を行なっています。

地域住民はもちろん、小中学生も学校行事として参加し、機能訓練（濃煙・水消火器体験、三角巾・AEDの使い方）を参加者全員が体験しています。

東日本大震災は想定外の被害をもたらしました。いまだ余震が起こり、不安は続いています。当民児協では、訓練を通して防災意識を高め、また地域との連携を大切にして、安心して住むことのできる地域社会をめざし活動していきたいと思っています。

